しただの郷学園（飯田小学校）懇談会

令和7年6月20日（金）午後7時から

【主な意見等】

- 下田地域の小学校統廃合は、誰がいつ決定するのか。
  - 学校配置については条例で定めているため、手続的にはこの条例を改正することで下田地域の小学校の統廃合が決定する。令和10年4月開校の場合は、どんなに遅くとも令和9年9月の市議会までには条例改正の議決が必要であると考えている。
    - 一方で、実質的には統廃合準備委員会が下田地域の小学校統廃合の検討を行う。統廃合準備委員会を設置するには、今年7月の教育委員会定例会で下田地域の小学校の統廃合に着手することと統廃合準備委員会を設置することを決議し、その後今年9月の市議会において議決をいただくことが必要である。

- 令和4年12月市議会の議事録には、統廃合の予定はないという答弁であったと思う。一転し、令和6年度に三条市未来の学校検討委員会が各学園区域ごとの提言を行った。どのような経緯があったのか。
  - これまでも統廃合について全く考えていないわけではなかった。1番は少子化の進行状況が理由である。三条市では、今年3月の二十歳を祝う会の対象者が1学年約940人、また、今の10歳児が1学年約670人である。新型コロナウイルス感染症などの影響もあり、令和5年度の三条市の出生数は403人、令和6年度の出生数は402人であり、特にここ数年で急激に少子化が進んでいる。出生数の増に向けて並行して子育て施策の充実も図っているが、少子化の進行を考え、統合の検討を早く開始すべきと考え、このタイミングでのこの内容での提案となった。

- 現在、複式学級が複数ある。下田地域の小学校が統合して単式学級になった場合の学習の進め方はどうなるのか。
  - 複式学級の場合、例えば、3年生時に4年生の社会、4年生時に3年生の社会を行っているとして、急に単式学級として学習時期を通常にすることはできない。統合により単式学級となることが決まった時点で調整を開始し、たとえば5年生時に5年の社会が学習できるように、6年生時に6年の社会が学習で

きるように、統合の1～2年前から複式学級内で学年を分けて学習を進める。これにより、統合して単式学級になった時、足並みを揃えて学習できる。

○ 資料5ページの令和10年度の下田地域全体の児童の合計人数は212人、令和20年度では97人である。下田地域の小学校5校を1校に統合して複式学級を減らしても、この人数ではすぐに再度複式学級になるのではないか。そうすると地域を跨いだ統合も視野に入れるべきではないか。

→ この表に記載の人数は、あくまでも推計した見込みの人数である。少子化対策を実施し、できるだけ減少スピードを緩やかにし、さらに言えば増加させたいところである。

また、単に下田地域の小学校5校を1校に統合するのではなく、秋から進める統廃合準備委員会では、より魅力ある学校にしていくよう検討をしたい。下田地域の小学校5校を1校に統合しても、将来的には複式学級となることも可能性がゼロとは言い切れないが、下田地域に1つ小学校を残すことが大切と考えている。

○ 下田地域の小学校5校を1校に統合すると4校廃校になるが、まずは2校や3校に統合にするという考え方はないのか。

→ 下田地域の小学校5校を最初から1校に統合ではなく、2校や3校などの統合とする場合、現状想定される児童数を前提とすると、すぐにまた複式学級となることも考えられる。そうすると小学校6年間の間に2回統合を経験しなければならない可能性もある。子ども達の負担を考えた場合、下田地域の小学校5校を最初から1校にすることが望ましいと考えている。

○ 少子化が加速したのは新型コロナウイルス感染症のためと思うが、その前後の婚姻数はどのくらい違うのか。感染症前後の婚姻数については、後日、三条地域、栄地域、下田地域ごとの人数を自治会長協議会で情報提供いただきたい。

→ 新型コロナウイルス感染症前後の婚姻数は、手元になくお答えできない。システム上の都合で三条・栄・下田地域に分類した婚姻届の数の把握が難しいと聞いている。三条市全体の人数であれば提供できるので、後日、何らかの形で情報提供させていただく。

○ 下田地域の小学校だけの統廃合ではなく、大崎学園区や三条おおじま学園区の子どもが下田地域の小学校に通うような、三条地域を含めた統合の考えはないのか。

→ 大崎学園は現時点で1年生から6年生で約500人の子どもが通学しているので、大崎学園区から下田地域に通うことは現実的ではない。また、三条おおじま学園区も下田地域に通うとなると、スクールバスの乗車時間が長くなり、たとえばこれが原因で三条市の外に通学を希望する子ども達がたくさん出たとなっては本末転倒である。三条地域、栄地域及び下田地域を跨いだ小学校と統合することは予定していない。

○ 統廃合準備委員会の委員について、学校運営協議会から選出とあるが、どのように人選するのか。また、スケジュールはどのようになるか。

→ 統廃合準備委員会を設置するためには、予算が必要であることから、令和7年9月の市議会で議決いただいた後、速やかに人選をお願いしていきたい。

○ 各小学校の学校運営協議会の開催日数は限られている。その点は考慮してもらえるのか。

→ 統廃合準備委員会のみで全てが協議されるものではないため、各学校運営協議会に持ち帰っていただく議論もあると考える。各学校運営協議会においては、通例の年間開催日数以上の開催も想定されるのでご理解・ご協力いただきたい。

○ 下田地域の小学校の統廃合時期は令和10年4月が望ましいとのことだが、この懇談会でも令和10年4月開校か、令和15年4月開校かの意見が出ている。令和10年4月の開校は決定なのか。

→ 子ども達の教育環境を良くするための統廃合であり、令和10年4月開校自体が目的ということではない。統廃合準備委員会で協議・決定事項について更なる時間が必要となれば開校時期が伸びることはありうる。しかし、開校時期が伸びれば1年ずつ遅れることになり、その分だけ複式学級も増えることになるため、できるだけ早い令和10年4月の統合を目指すものである。

- 資料の 8 ページの下田地域の各小学校 に、中学校が入っているがなぜか。
  - しただの郷学園においては、中学校の学校運営協議会が、そのまましただの郷学園運営協議会となっていることから、しただの郷学園を全体的な視点で考えていただきたく入っているもの。

- 教材や体操着について、統合した小学校のものを必ず購入しなければならないのか。また、統合した小学校の校舎がどこになるのかが心配である。新聞で見たが、なぜ下田中学校の校舎を使わないのか。
  - 体操着等の学用品については、統合後に新しい学用品になっても、統合前の各小学校の学用品を使える方針である。

使用する校舎については秋から進める統廃合準備委員会での協議・決定事項だが、新潟県では、3年生以上は 35 人以内、1・2年生は 32 人以内を 1 クラスとしている。下田地域の小学校 5 校を 1 校にした場合、令和 10 年 4 月には各学年とも 1 クラス又は 2 クラスとなるため、このクラス数が入る校舎が必要となる。下田中学校の校舎には、受入れの能力的に令和 15 年度前後にしないと小学校 1 年生から中学校 3 年生までの 9 学年が入ることは難しい。

また、それならば令和 15 年 4 月まで下田地域の小学校の統合を待つという考えもあると思うが、複式学級の推移等を踏まえた子ども達の教育環境を考えると、令和 15 年 4 月まで統合を行わずに今のままにしておくのでは遅いと考えている。このことから、令和 10 年 4 月に開校する小学校校舎に下田中学校の校舎を使うことは難しいと考える。

- 下田地域の小学校が統合することにより、飯田小学校区の子ども達が他の小学校の校舎に通学する場合、スクールバスを整備するのか。
  - スクールバスについては、統廃合準備委員会での検討事項だが、小学生や中学生の学校区分で分けるのではなく、どう運行したら小学校 1 年生から中学校 3 年生の全学年としてスムーズに通学できるのかしっかり考えていきたい。

- 下田地域の小学校統合について、子ども達の意見は聴いたのか。下田地域の小学校統合は子ども達のためと言うのに、子ども達がどう思っているかは必要ないのか。
  - 子ども達の意見は聴いていない。今後、下田地域の小学校の統合を進めるにあたり、検討状況や決定事項を子ども達に伝えていかなければならないと思う

が、子ども達にとってより良い教育環境を考えるのは大人の責任で決めることであると考えている。よって統合そのものについて子ども達の意見を聴くことは考えていない。

- 下田地域の小学校統合は、決定してから子ども達に話せば良いのか。
  - どのようなタイミングで子ども達に説明をするのかについては、とても大事なことであると認識している。しかるべき時に、子ども達にどのように伝えれば良いか、各学校の校長先生と相談しながら、発達段階に応じた形で子ども達に説明をしていく。

- 下田地域の人口を増やすために、婚姻数の増加や若者がUターンしたくなるまちづくりはどう考えているか。
  - 三条市全体的なまちづくりの取組となるが、三条市では、市内企業の職場環境を向上させる取組や、Uターンで三条市に帰ってきた若者に奨学金返還金の返還支援も行っている。

- 現在、小学校の体育館を学校開放で使用しているが、閉校した小学校の学校開放はどうなるのか。
  - 下田地域の閉校した小学校の校舎活用については、少なくとも避難所としては残さなければならないと考えている。統合の準備と並行して利活用を考えていくことになる。統合が決定した時点で、校舎の利活用についても様々なアイデアやお考えをお聴かせ願いたい。三条市全体で考えていく。

20時10分終了（参加者57人）